

**LINEEYE**

ネットワークテスター

**LE-580FX MPT**

ユーザーマニュアル

(第一版)



## はじめに

このたびは LE シリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくご利用いただくために、このユーザーマニュアルをお役立てください。なお、このユーザーマニュアルと保証書は、必ず保管してください。万一使用中にわからないことや具合の悪いことが起きた時、きつとお役に立ちます。

## ご注意

- 本書の内容の全部または一部を無断で転載あるいは複製することは、法令で別段の定めがあるほか、禁じられています。
- 本書の内容および製品仕様について、改良などのため将来予告なく変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成しておりますが、万一記載漏れや誤り、理解しにくい内容など、お気づきの点がございましたらご連絡くださいますようお願い致します。
- 本機を使用したことによるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、一切のその責任を負いかねます。  
また、本製品を使用中にデータなどが消失した場合や、記録したデータが壊れていた場合でも、データなどの保証は一切いたしかねますのであらかじめご了承ください。

## 使用限定について

本製品は計測機器として使用されることを目的に、開発製造されたものです。原子力設備や機器、航空宇宙機器、医療機器、輸送設備や機器など故障や誤動作が人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器と組み合わせて使用されることは意図されておらず、また保証していません。このような用途で使用される場合は、お客様の責任においてフェールセーフなどの安全対策へのご配慮をいただくとともに当社営業担当者までご相談ください。

# 安全のためのご注意

## 必ずお読みください！！

この「安全のためのご注意」には、対象製品をお使いになる方や、他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。

ご使用前に、次の内容（表示・図記号）を理解し、記載事項をお守りいただき正しくお使いください。

〔表示の説明（安全注意事項のランク）〕



誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



誤った取り扱いをすると、人が傷害\*1を負うまたは物的損害\*2が発生する可能性が想定される内容を示します。

\*1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

\*2：物的損傷とは、家屋、建築物、家具、装置機器、家畜、ペットにかかわる拡大損傷をさします。



- 本製品を分解したり、改造しないで下さい。  
火災・感電・動作不良の原因となります。
- 煙が出たり、異臭、異音がする場合は、直ちに使用を中止してください。  
そのまま使用すると火傷や火災、感電の危険があります。
- 水などで濡らさないでください。  
発熱、感電、故障の原因となります。
- 劣化（破損など）したケーブル類は使用しないでください。  
発熱し、出火する危険があります。
- 引火性ガスなどの発生場所では使用しないでください。  
発火の原因となります。



- 本製品は以下のような場所で使用もしくは、保管しないで下さい。
  - ・ 不安定な場所や振動の多いところ  
落下等によるけがや故障の原因となります。
  - ・ 使用範囲を超える温湿度や急激な温度変化のあるところ  
高温や結露により故障の原因となることがあります。
  - ・ 直射日光の当たるところ  
50℃以上の高温となり、火傷や故障の原因となります。
  - ・ 水気や埃が多いところ
  - ・ 熱を発生するものの近く（ヒーター、電熱器、ストーブなど）  
故障やケガの原因となります。

# 使用許諾契約書

## 著作権について

株式会社ラインアイ(以下、弊社)が提供する LE-580FX 用の本ソフトウェア(以下、本ソフトウェア)ならびに、この取扱説明書(以下、本書)の著作権は、弊社に帰属します。

## 免責事項

本書に掲載される情報は、事前の予告なしに変更されることがあります。尚、弊社は理由の如何に関わらず、情報の変更によって生ずるいかなる損害についても責任を負いません。

## 無保証

本ソフトウェアの一切(全ての構成部分、媒体、マニュアル(本書)などの関連書類、電子文書を含みます)は、何等保証もない現状有姿のまま提供されるものであり、お客様は本ソフトウェアをご自身の責任において使用するものとします。弊社は、本ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、または本ソフトウェアが中断なく稼動すること、本ソフトウェアが知的財産を含む第三者の権利を侵害しないこと、商品性を有することまたはお客様の目的に適合することを含め、本ソフトウェアに関して、明示であると黙示であるとを問わず何等の保証をいたしません。

## 一般事項

本契約のいずれかの条項またはその一部が法律により無効となった場合は、かかる部分は本契約から削除されるものとします。

## その他

別段に定めのない事項については、著作権法および関連法規に準拠するものとします。

Copyright © 2008 Lineeye Co., Ltd. All Rights Reserved.

E-mail: [info@lineeye.co.jp](mailto:info@lineeye.co.jp)

Web: <http://www.lineeye.com>

Fax: 075-693-0163

# 株式会社 ラインアイ

# 目次

1. ご使用の前に.....	1
1.1 仕様.....	1
1.2 LE-580FX MPT の機能.....	2
2. ソフトウェアのインストールとアンインストール.....	3
2.1 LE-580FX MPT のインストール.....	3
2.2 LE-580FX MPT のアンインストール.....	4
3. メインウィンドウ.....	5
3.1 メニューについて.....	5
3.2 表示について.....	6
3.2.1 テスト結果の表示 (Result Status).....	6
3.2.2 操作ボタン.....	7
3.2.3 テストモデル名の設定.....	7
3.2.4 タスクの設定.....	8
3.2.5 時間表示.....	8
3.2.6 繰り返し回数.....	8
3.2.7 メモ.....	9
3.2.8 カウンター表示.....	9
3.2.9 タスク表示.....	10
3.2.10 LED パネル.....	10
4. 機能設定.....	11
4.1 テストモデルの新規設定.....	11
4.1.1 テスト条件の設定 (Configuration Setup).....	11
4.1.2 タスク設定 (Task Setting).....	12
4.1.4 環境設定 (Environment Setting).....	19
4.2 テストモデル設定の読み込み.....	21
4.3 テストモデル設定の変更.....	22
4.4 データの閲覧 (View).....	23
5. タスクの実行.....	26

## 1. ご使用の前に

LE-580FX MPT は、LE-580FX デバイスを組み合わせて、正確で効率的なイーサネットテストを一括で実行しす。LE-580FX MPT には、多様なパケットの送受信テストが、あらかじめ用意されています。LE-580FX MPT では、設定したテストを保存し、後で読み込んで活用できます。テスト結果のデータは分かりやすく表示されます。テスト過程のログデータは詳細に表示されま  
す。LE-580FX MPT は、LE-580FX デバイスを強力かつ効果的に活用するツールです。

### 1.1 仕様

項目	説明
ハードウェア	LE-580FX
対応OS	Windows 2000、Windows XP、Windows Vista
各種テスト	パケット送受信 (Tx/Rx のテスト)、フロー制御、ブロードキャスト、フィルター、CRCエラー、ピング
レポートフォーム	テキストフォームでのテストレポート
設定方法	テキストファイルと GUI 形式

## 1.2 LE-580FX MPT の機能

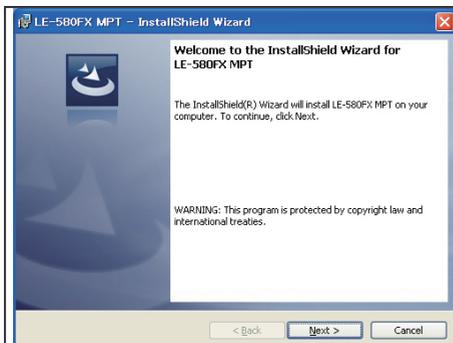
LE-580FX MPT のテスト機能は、パケット送受信、フロー制御、ブロードキャスト、フィルター、CRCエラー、ピングテストです。

テスト名	テスト項目
送受信テスト	FW_10H (10Mbps、半 2 重通信) FW_10F (10Mbps、全 2 重通信) FW_100H (100Mbps、半 2 重通信) FW_100F (100Mbps、全 2 重通信)
フロー制御テスト	FC_10F_100F (10Mbps、全 2 重通信 ↔ 100Mbps、全 2 重通信) FC_100F_10F (100Mbps、全 2 重通信 ↔ 10Mbps、全 2 重通信)
ブロードキャストテスト	BC_10H (10Mbps、半 2 重通信) BC_10F (10Mbps、全 2 重通信) BC_100H (100Mbps、半 2 重通信) BC_100F (100Mbps、全 2 重通信)
フィルターテスト	FT_10H (10Mbps、半 2 重通信) FT_10F (10Mbps、全 2 重通信) FT_100H (100Mbps、半 2 重通信) FT_100F (100Mbps、全 2 重通信)
CRCエラーテスト	CRC_10H (10Mbps、半 2 重通信) CRC_10F (10Mbps、全 2 重通信) CRC_100H (100Mbps、半 2 重通信) CRC_100F (100Mbps、全 2 重通信)
ピングテスト	Ping (A → B) Ping (B → A) Ping (A → N) Ping (B → N)

## 2. ソフトウェアのインストールとアンインストール

### 2.1 LE-580FX MPT のインストール

付属 CD にある「LE-580FX\_MPT.exe」を実行します



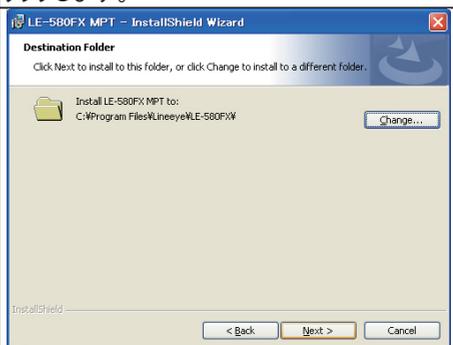
LE-580FX MPT のインストールを始めます。「Next」をクリックし、インストールを続けます。



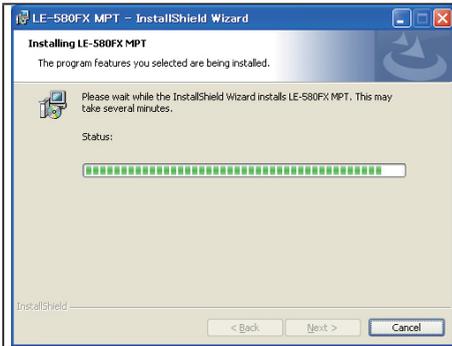
ライセンス契約をお読みいただき、ご了承いただける場合は、「I accept the terms in the license agreement」をチェックし、「Next」をクリックします。



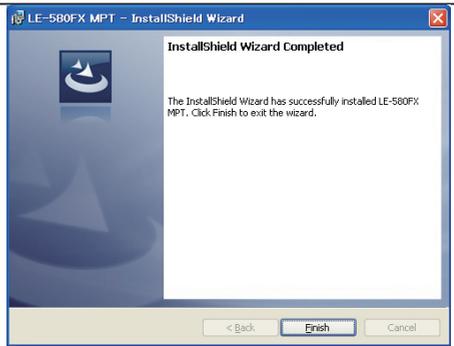
ユーザーの名前と所属機関を入力して「Next」をクリックします。



インストールの設定を確認して、「Next」をクリックします。



プログラムのインストールが進行します。



LE-580FX MPT のインストールが完了すると上の画面が表示されるので、「Finish」をクリックしてください。

デスクトップ上にアイコン  が表示されます。



## 2.2 LE-580FX MPT のアンインストール

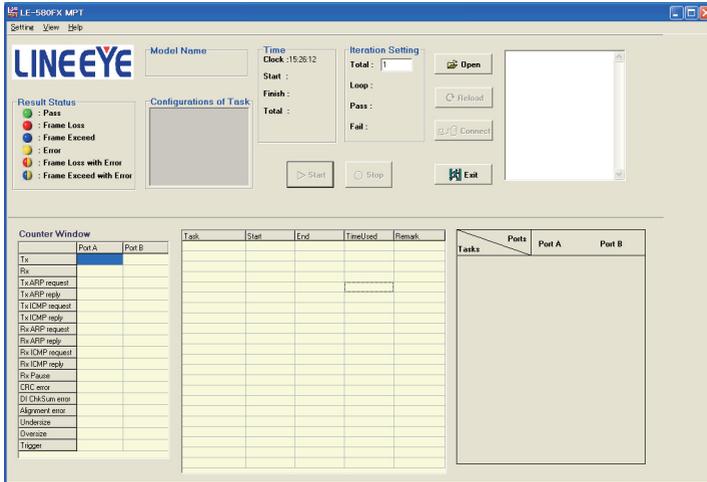
LE-580FX MPT が正しく動作しないときは、一度アンインストールしてから再インストールする必要がある場合もあります。また、LE-580FX MPT の新しいバージョンをインストールする場合も、先に古いバージョンをアンインストールします。

アンインストールの方法は2つです。スタートメニューもしくはコントロールパネルから実行します。

- ・ スタートメニュー：スタートメニュー → すべてのプログラム → Lineeye → LE-580FX MPT  
→ Uninstall LE-580FX MPT
- ・ コントロールパネル：コントロールパネル → プログラムの追加と削除 → LE-580FX MPT  
→ 削除

### 3. メインウィンドウ

メインウィンドウは以下のように表示されます。メインウィンドウのツールバーにあるのは、Setting、View、Help です。



#### 3.1 メニューについて

“Setting”メニューには、以下の項目があります。

項目	用途
Modify Model	現在行おうとしているテストモデルの設定内容を変更します。
New Model	新たにテストモデルを設定します。
Exit	LE-580FX MPT を終了します。

“View”メニューでは、以下の項目を選択できます。

項目	用途
Show Current Log	直近で実施したテストのログファイルを開きます。
Show Current Config	現在行おうとしているテストモデルについて、詳細な設定値をテキスト表示します。
Show Current Folder	テストモデルを保存したファイルが格納されているフォルダを、開きます。
Show LE-580FX Information	 <p>LE-580FX デバイスのファームウェアのバージョンを表示します。</p>

“Help Menu”メニューには、以下の項目があります。

項目	用途
Read Me	設定に関する説明ファイルを開きます。
About LE-580FX MPT	 <p>LE-580FX MPT のバージョンを表示します。</p>

## 3.2 表示について

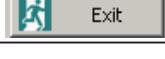
### 3.2.1 テスト結果の表示（Result Status）

メインウィンドウの”Result Status”で表示されるLEDのカラー表示は、以下のようなメッセージになります。

項目	説明
	テスト合格
	パケット損失
	パケット過多
	受信エラー：CRCエラー、チェックサムエラー、アライメントエラー、ドリブルエラー、オーバーサイズエラー、アンダーサイズエラー
	パケット損失と受信エラー
	パケット過多と受信エラー

## 3.2.2 操作ボタン

メインウィンドウのコントロールボタンは以下の通りです。

項目	説明
 Open	保存してあるテストモデルのファイルを開きます。DUT（試験対象となる機器）に合わせて設定を用意することができます。
 Reload	テストモデルの設定を変更した場合、設定値を改めて反映させます。
 Connect	LE-580FX MPT を LE-580FX デバイスに接続します。
 Start	テストを開始します。
 Stop	テストを中断します。
 Exit	LE-580FX MPT を終了します。

テストの開始手順：

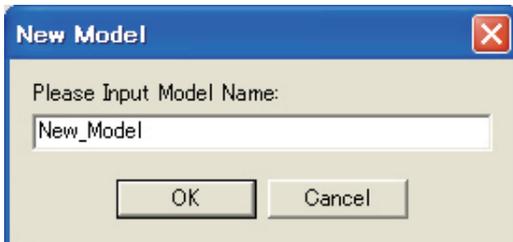
まず  Open ボタンを押して、テストモデルを保存している “.ini” ファイルを開きます（もしくは新規にモデルを設定します）。  Start ボタンを押してテストを開始します。

## 3.2.3 テストモデル名の設定

LE-580FX MPT では、実施するテストの設定を「モデル」として分類します。

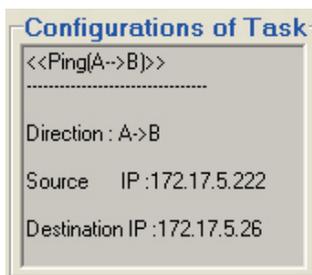
テストは、このモデルを新たに作成するところから始まります。

メインウィンドウの “Setting” メニューから、 “New Model” をクリックし、これから新しく作成するテストモデルに名前をつけます。



新しいモデルの名前を入力して、OKを押してください。

### 3.2.4 タスクの設定



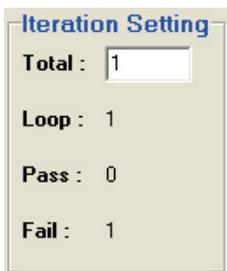
“Configuration of Task”では、直近で実施したパケットテストの設定（サーバーのアドレス、パケット長、パケット数、パケットの送信間隔）やピングテストの設定（A・Bポートの送受信方向、宛て先IPアドレス、送信元IPアドレス）が表示されます。

### 3.2.5 時間表示



“Time”では、現在時刻、テスト開始時刻、テスト終了時刻、テスト所要時間が表示されます。

### 3.2.6 繰り返し回数



“Iteration Setting”では、“Total”にテストの繰り返し総数を入力します。

“Loop”にテスト実行段階での繰り返し回数、“Pass”に合格回数、“Fail”に不合格回数が表示されます。

## 3.2.7 メモ

メインウィンドウの右上にあるメモ表示枠は、実行しているテストがどのステップに入ったかを表示します。

## 3.2.8 カウンター表示

Counter Window	Port A	Port B
Tx	1000	1000
Rx	1000	1000
TxARP request	0	0
TxARP reply	0	0
TxCMP request	0	0
TxCMP reply	0	0
RxARP request	0	0
RxARP reply	0	0
RxCMP request	0	0
RxCMP reply	0	0
Rx Pause	0	0
CRC error	0	0
DI CH-Sum error	0	0
Alignment error	0	0
Undersize	0	0
Oversize	0	0
Trigger	0	0

この表では、タスクの実行中に、送受信ポートのパケット数を表示します。エラーパケット数も表示します。

## 3.2.9 タスク表示

The screenshot shows the LINEEYE MPT software interface. The main window displays the 'Counter Window' table, which is highlighted with a red box. This table lists various tasks and their execution results. The 'Tasks' table on the right shows the status of each task, with green, red, and blue indicators representing different results.

Task	Start	End	TimeUsed	Remark
FW_100F	16:08:22	16:08:51	00:00:28	Pass
FC_100F	16:08:51	16:09:25	00:00:33	FailLink Er
BC_100F	16:09:25	16:09:53	00:00:28	Pass
CRC_100F	16:09:53	16:10:26	00:00:33	Fail
PingB->B)	16:10:26	16:11:06	00:00:40	Pass
PingB->A)	16:11:06	16:11:47	00:00:40	Pass
CRC_10F	16:11:47	16:12:15	00:00:28	Fail
BC_10F	16:12:15	16:12:45	00:00:28	FailLink Er
FT_100F	16:12:45	16:13:15	00:00:30	Fail
FT_10F	16:13:15	16:13:45	00:00:30	Fail

メインウィンドウの中下段に、テストに選んだタスクと、テスト前に行うテストパケットによるループ確認のためのタスク、その他付随的なタスクについて、開始時刻 (Start)、終了時刻 (End)、テスト所要時間 (Time Used) が表示され、「合格 (Pass)」、「不合格 (Fail)」、「中止 (Stopped)」などテスト結果も表示されます (Remark)。

## 3.2.10 LED パネル

The screenshot shows the LINEEYE MPT software interface. The main window displays the 'Counter Window' table, which is highlighted with a red box. This table lists various tasks and their execution results. The 'Tasks' table on the right shows the status of each task, with green, red, and blue indicators representing different results.

Task	Start	End	TimeUsed	Remark
FW_100F	16:08:22	16:08:51	00:00:28	Pass
FC_100F	16:08:51	16:09:25	00:00:33	FailLink Er
BC_100F	16:09:25	16:09:53	00:00:28	Pass
CRC_100F	16:09:53	16:10:26	00:00:33	Fail
PingB->B)	16:10:26	16:11:06	00:00:40	Pass
PingB->A)	16:11:06	16:11:47	00:00:40	Pass
CRC_10F	16:11:47	16:12:15	00:00:28	Fail
BC_10F	16:12:15	16:12:45	00:00:28	FailLink Er
FT_100F	16:12:45	16:13:15	00:00:30	Fail
FT_10F	16:13:15	16:13:45	00:00:30	Fail

メインウィンドウの右下段のLEDパネルは、タスクの全結果を表示します。

灰色 : テスト選ばれていないタスク、もしくは未実行のタスク

緑色 : パケットテスト合格

赤色 : パケットテスト不合格

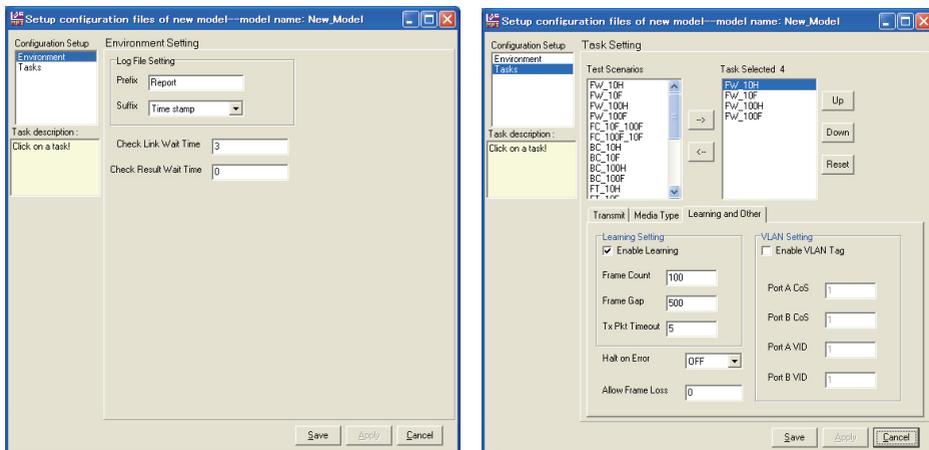
## 4. 機能設定

### 4.1 テストモデルの新規設定

ツールバーから、「Setting」→「New Model」と選択してください。

新しいテストモデルの名前を入力して「OK」ボタンをクリックすると、以下のような画面が出てきます。

※テストモデル名の付いたフォルダが作成されるので、そこに設定ファイルを保存できます。



#### 4.1.1 テスト条件の設定（Configuration Setup）

テスト条件設定（Configuration Setup）には、2つの項目があります。環境設定（Environment）とタスク設定（Tasks）です。

環境設定（Environment）では、ログファイルの設定など、タスクに付随的な条件を設定します。

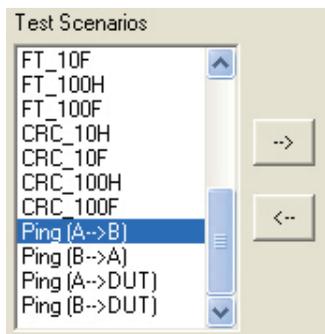
これに対して、タスク設定（Tasks）はテストで実施する個々のタスクに直接関連する設定です。タスク設定（Tasks）は、大きく2つに分かれます。設定画面の上半分は、用意されている全テスト項目の一覧と、選択したタスクの一覧です。

設定画面の下半分は、3つのタブで構成されています。

Transmit（送信時の条件）、Media Type（メディアタイプ）、Learning and Other（学習パケットとその他）です。

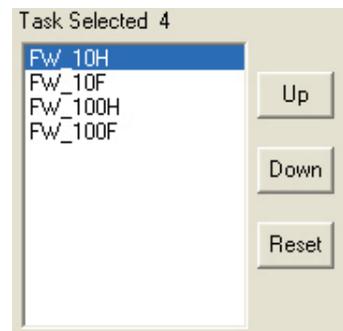
## 4.1.2 タスク設定 (Task Setting)

### 4.1.2.1 テスト項目一覧 (Test Senarios)



LE-580FX MPT に用意されているテスト (全 16 種類) は、このテスト項目一覧 (Test Senario) から選択できます。「Test Senario」から実施したいテストをクリックして、**-->** ボタンを押すと、実行するタスクを表示する「Task Selected」に追加されます。逆に「Task Selected」で **<--** ボタンを押すと、「Task Selected」から削除されます。

### 4.1.2.2 実行タスク (Task Selected)



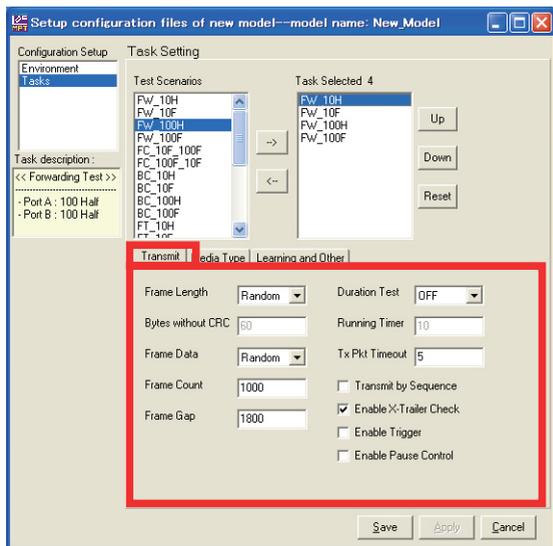
“Task Selected #”の欄は、実行するテストを実行順に表示しています。テスト項目をクリックした後、**Up** ボタンや **Down** ボタンを押すと、実行する順番を変更できます。**Reset** ボタンを押すと、選択したテスト項目が消去されます。

※他の項目も含めて設定の入力をすべて終えた段階で、**Apply** ボタンを押して、設定を確定させます (設定を変えたら、その画面を切り替える前に必ず「Apply」ボタンをしてください)。

**Save** ボタンを押して設定を保存 (\*.ini) すると、設定は完了です (メイン画面に戻るので、

**Open** ボタンを押して、.ini ファイルを読み込み、タスクを実行します)。

### 4.1.2.3 パケット送信（Transmit）



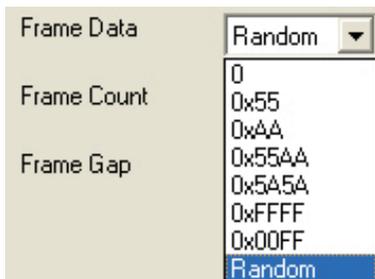
パケット送信（Transmit）タブでは主に、送信するパケットの編集を行います。以下で詳しく解説します。



パケット長については2種類（“Random（ランダム長）”、“Fixed（固定長）”）から選択できます。



“Fixed（固定長）”の場合、パケット長を決めます。CRC 抜きで、60～1514バイトの範囲で入力してください。



パケットのデータ部のパターンは、8種類から選べます。左のように、7種類の固定パターンとランダムから選びます。



パケットの送信をパケットの数で設定します。

Frame Gap

フレーム間のビットタイムを入力してください。ビットタイムは通信速度に対応したレートになります。

Duration Test    
Running Timer

パケットの送信を送信時間の長さで設定します。“ON”を選ぶと、パケットの送信時間を設定できます。※パケット数で設定する“Frame Count”は対照となるので、どちらか一方だけが有効になります。

Running Timer

パケットの送信時間（秒）を設定します。

Tx Pkt Timeout

パケットの送信にかかる時間の上限（秒）を設定します。

Transmit by Sequence  
 Enable X-Trailer Check  
 Enable Trigger  
 Enable Pause Control

これら4つの追加機能は、送信するパケットに特定の機能を付け加えます。

“Transmit by Sequence”は、パケットを1つ1つ送信します。

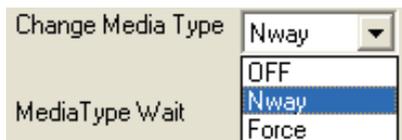
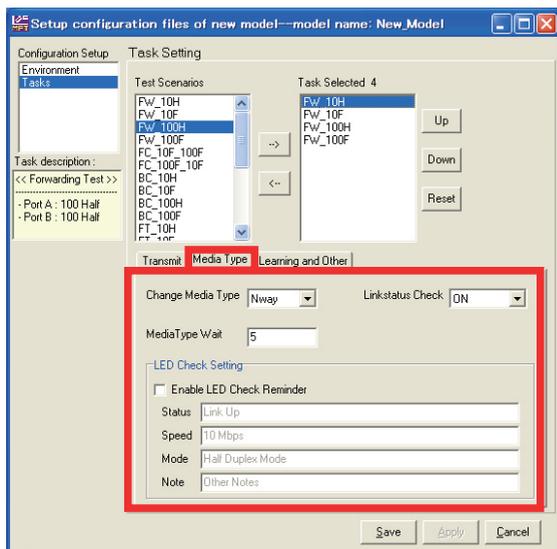
“Enable X-Trailer Check”は、独自のパケットチェック方式によって、精度の高いパケットエラーの検出を行います。

“Enable Trigger”は、送信パケットにトリガー情報を与えます（カウンタの「Trigger」でカウントされます）。

“Enable Pause Control”は、フロー制御を許可します。

ボックスにチェックを入れると、各機能が有効になります。

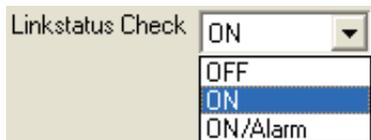
## 4.1.2.4 メディアタイプ (Media Type)



メディアタイプ切り替え (Change Media Type) では、オートネゴシエーション (Nway)、固定 (Force)、デフォルトの状態維持 (OFF) から選択します。



メディアタイプの切り替え時間 (Mediatype Wait) を設定します (秒)。DUT (テスト対象機器) によって、メディアタイプの切り替えにかかる時間の長さが異なります。

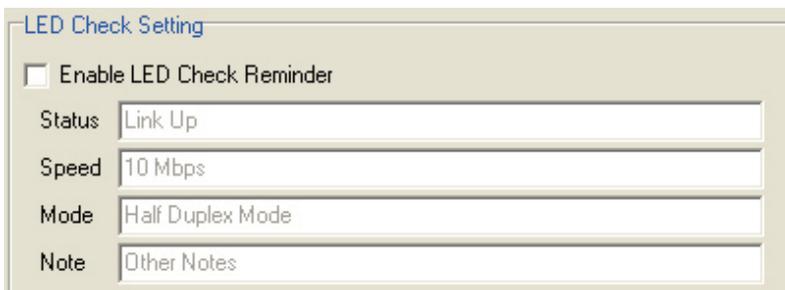
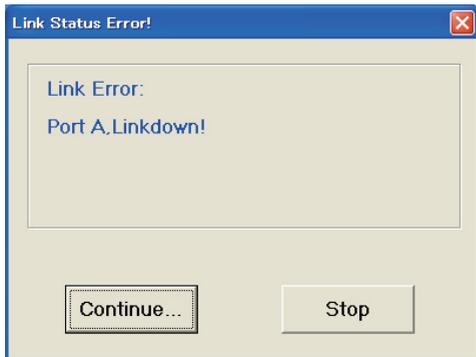


リンク状態のチェック (Linkstatus Check) について 3 種類から選びます。

「OFF」は、タスクの実行の前にリンク状態の確認を行いません。

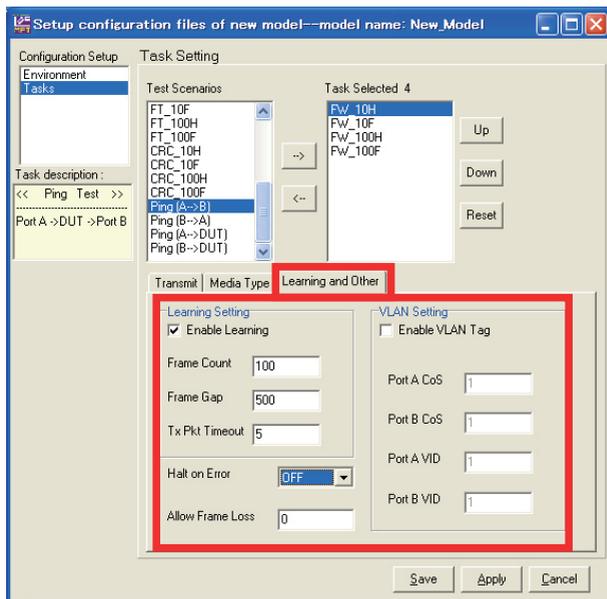
「ON」は、リンク状態が正常なことを確認した後にタスクを実行します。

「ON/Alarm」は、リンク状態が正常なことを確認した後にタスクを実行する一方、リンク状態が異常なときは警告が出ます。

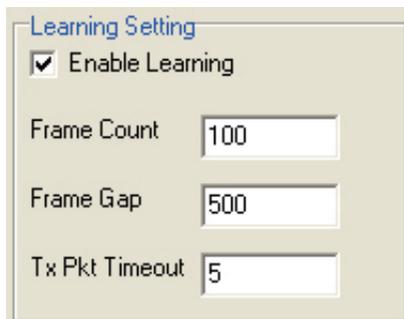


LED チェック設定（LED Check Setting）では、「LED Check Reminder」にチェックを入れると、4つのデフォルト設定が有効になります。LED 表示が正しいかどうかを確認するテストの前に毎回、ここに書かれたメッセージがウィンドウ表示されます。

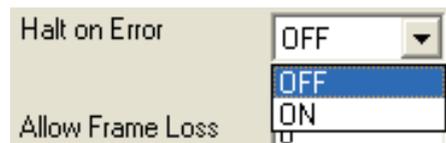
## 4.1.2.4 学習パケット、その他（Learning and Other）



学習パケット・その他（Learning and Other）タブでは、学習パケットとVLANタグの設定ができます。



学習パケットの設定（Learning Setting）では、タスク開始前に送受信される「学習パケット」を設定します（パケット数（Frame Count）、送信間隔（Frame Gap）、送信時間の制限（Tx Pkt Timeout））。



エラー停止（Halt on Error）は、エラー発生時にタスクを中止する（ON）か、そのまま実行する（OFF）かを設定します。

Allow Frame Loss

パケット損失許容数（Allow Frame Loss）は、タスク結果の合格判定時に、パケットの損失（パケット数）をどのくらいまで許容するかを設定します。

VLAN Setting

Enable VLAN Tag

Port A CoS

Port B CoS

Port A VID

Port B VID

VLAN設定（VALN Setting）では、ボックスにチェックを入れると、A・Bポートそれぞれに対して CoS や VID を設定できます。

### 4.1.3 ピングテスト（Task Ping）

Setup configuration files of new model—model name: New\_Model

Configuration Setup

Environment

Tasks

Task description:

<< Ping Test >>

Port A -> DUT

Task Setting

Test Scenarios

Task Selected 6

Fw\_10H  
Fw\_100H  
Fw\_100F  
CRC\_10H  
CRC\_100F  
CRC\_100H  
CRC\_100F  
Ping (A->B)  
Ping (B->A)  
Ping (A->DUT)  
Ping (B->DUT)

Fw\_10H  
Fw\_10F  
Fw\_100H  
Fw\_100F  
Ping (A->B)  
Ping (A->DUT)

Up  
Down  
Reset

Ping

Destination IP 172 . 17 . 5 . 1

Port A property

IP address 172 . 17 . 5 . 2  
SubMask 255 . 255 . 254 . 0  
Gateway 172 . 17 . 5 . 254

Port B property

IP address 172 . 17 . 5 . 1  
SubMask 255 . 255 . 254 . 0  
Gateway 172 . 17 . 5 . 254

Enable VLAN Tag  
CoS 1 VID 1

Enable VLAN Tag  
CoS 1 VID 1

Ping number 4 Pass threshold 4

OK Cancel

ピングテストがタスクに入った場合、画面下半分がピング設定用に切り替わります。接続元と接続先の組み合わせは「ポートA→ポートB」、「ポートB→ポートA」、「ポートA→DUT（スイッチングハブやネットワーク機器）」、「ポートB→DUT」から選択できます。

### 4.1.3.1 VLAN 設定 (VLAN Setting)

<input checked="" type="checkbox"/> Enable VLAN Tag	CoS	1	VID	1
<input checked="" type="checkbox"/> Enable VLAN Tag	CoS	1	VID	1

「Enable VLAN Tag」にチェックを入れると、各ポートのVLAN設定が有効になるので、ポートの値を入力できます。

### 4.1.3.2 ポートのプロパティ (IP Addresses, SubMask and Gateway)

Port A property					Port B property				
IP address	172	17	5	2	IP address	172	17	5	1
SubMask	255	255	254	0	SubMask	255	255	254	0
Gateway	172	17	5	254	Gateway	172	17	5	254

ポートAとポートBのIPアドレスを設定します。送信元の「Destination IP」は送信先のIPアドレスと同じです。

### 4.1.4 環境設定 (Environment Setting)

Environment Setting

Log File Setting

Prefix Report

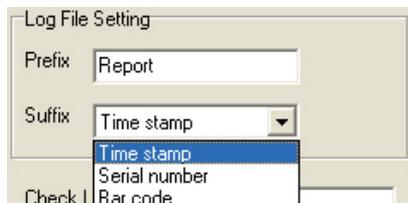
Suffix Time stamp

Check Link Wait Time 3

Check Result Wait Time 0

Save Apply Cancel

環境設定（Environment setting）では、ログファイル設定（Log File Setting）の他、リンクチェックの制限時間（Check Link Wait Time）、テスト終了までのオフセット時間（Check Result Wait Time）の設定ができます。



「Prefix」では、ログファイル名の冒頭に入る文字（初期設定は「Report」）を設定します。

「Suffix」では、ログファイル名の冒頭に続く表記を選択します。

「Time stamp」は、セーブ時のタイムスタンプが入ります。

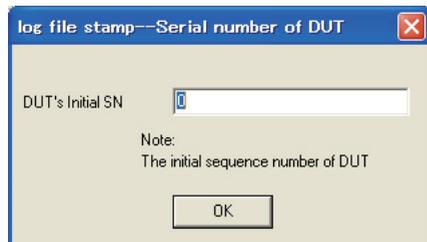
「Serial number」は、DUT のシリアル番号を入力できるものです。

「Bar code」は、DUT のバーコード番号を入力できるものです。

すべての設定を入力したら、「Apply」ボタンを押し、「Save」ボタンを押して、設定ファイル（.ini）を保存します。

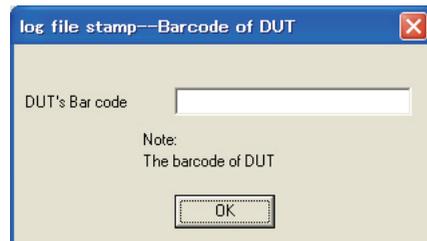
その後は、メインメニューで設定ファイルを読み込み、「Start」を押せば、タスクが実行されます。

「Suffix」で「Serial number」を選んだ場合、タスクの開始時に入力を求めるウィンドウが開きます。検査する機器の最初のシリアル番号を入力（0～9,999,999,999）して「OK」を押してください。その後は、「Start」を押してタスクが完了する度に、ログファイル名のシリアル番号部分が自動的に1ずつ増えていきます（再度、開始するシリアル番号を入力したいときは「Open」ボタンか「Reload」ボタンで設定を再度読み込んでから、「Start」ボタンを押してください）。



「Suffix」で「Bar code」を選んだ場合、タスクの開始時に入力を求めるウィンドウが開きます。

検査する機器のバーコード番号を入力して「OK」ボタンを押してください。



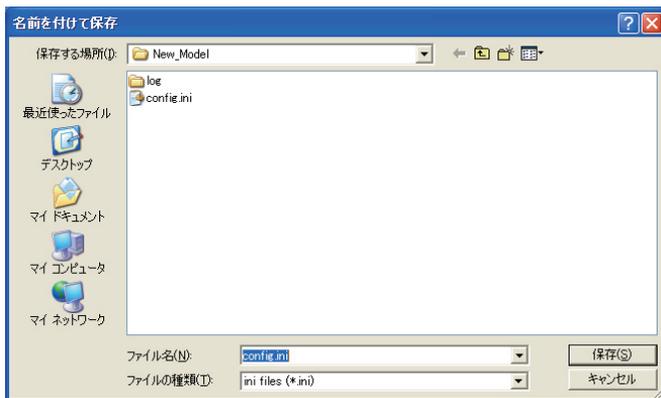
Check Link Wait Time

“Check Link Wait Time”では、ポートのリンク状態の確認を行っている間の待機時間（秒）を設定します。

Check Result Wait Time

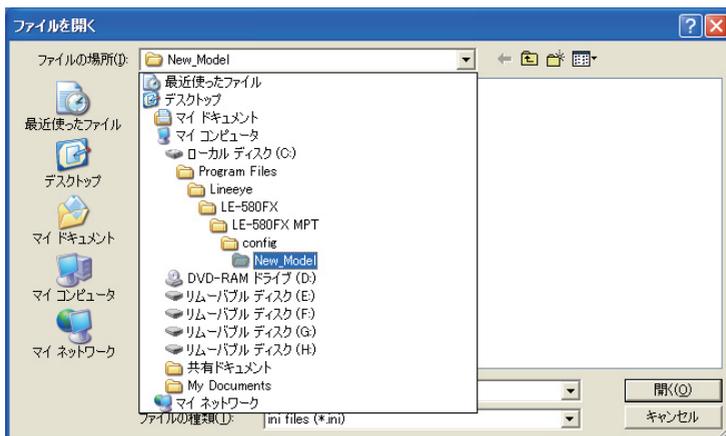
“Check Result Wait Time”では、タスク終了後の結果確認を行っている間の待機時間（秒）を設定します。

※設定を変更した場合、 **Reload** ボタンを押すまでは、新しい設定が反映されません。



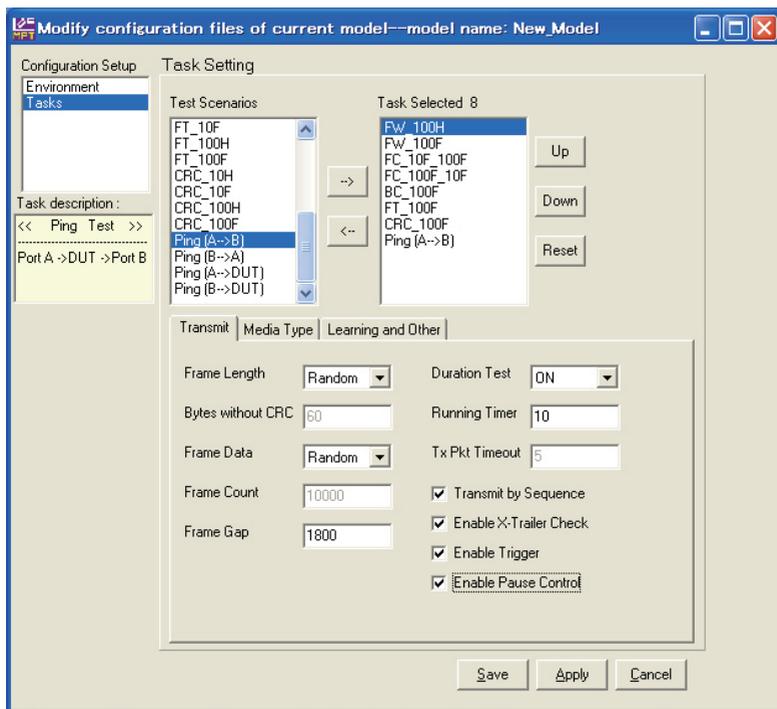
新しいテストモデルを作成したら、フォルダにその設定を保存する（.ini）します。その後、設定を変更する度に、設定を保存しなおします。

## 4.2 テストモデル設定の読み込み

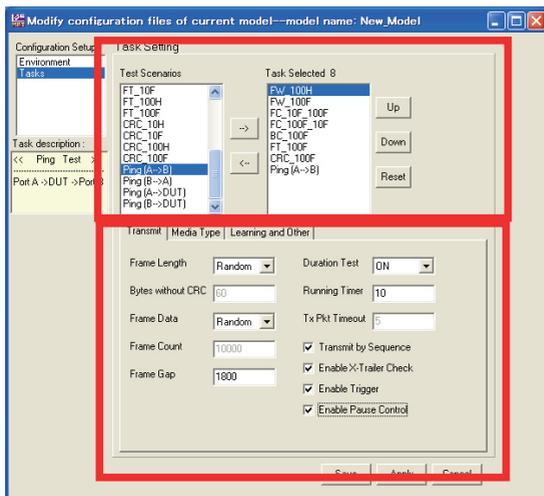


テストモデルは、DUTに合わせて別々に用意できます。  ボタンを押して、「\*.ini」ファイルを開き、設定を読み込んでください。

### 4.3 テストモデル設定の変更

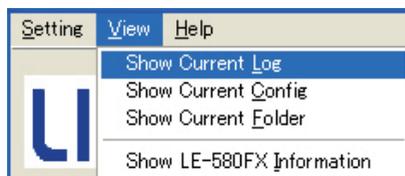


テストモデル設定を読み込んでから、メインメニューの「Setting」→「Modify Model」をクリックすると、そのテストモデルの設定を変更できます。現在行っているタスクの設定を変更したり、過去に設定したテストモデルを設定変更したりできます。新しいテストモデルの作成時と同様、テスト条件設定（Configuration Setup）には、2つの項目があります。環境設定（Environment）とタスク設定（Tasks）です。



タスクの設定には、テスト項目一覧「Test Scenario」と選択したタスク一覧「Task Selected #」があります。

## 4.4 データの閲覧（View）



タスクが終了した後、テストの結果は、テストモデルのフォルダ内に「log」フォルダが作成され、ログファイルとして自動で保存されます。

「View」→「Show Current Log」とクリックすれば、実行したタスクの結果がテキストデータで表示されます。「概要（SUMMARY）」と「詳細（DETAIL）」で構成されています。

「概要（SUMMARY）」に表示される情報：

テストモデル名、LE-580FX MPT のバージョン番号、タスクの開始時刻、所要時間、終了時刻、実行したタスク一覧

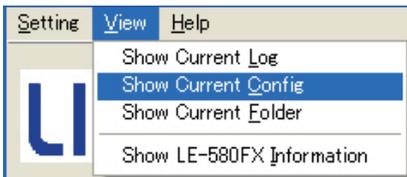
「詳細（DETAIL）」に表示される情報：

実行したタスク一覧、所要時間、設定（パケット数、パケット送信間隔、パケット長、パケット損失、フロー制御 / ピングの場合には、ピングコマンド実施・成功回数、ポートの送受信方向、送信元IPアドレス、宛て先IPアドレス）、テスト結果（パフォーマンステストとリンク確認）、パケット情報（A/Bポートごとに数値で表示：送受信パケット、ポーズパケット、CRCエラー、チェックサムエラー、アライメントエラー、アンダーサイズ、オーバーサイズ、トリガー、送受信要求、ピング応答）

```

====<< SUMMARY >>====
Model       : New_Model
DogMPT      : v1.0.0
Loop        : 1/1
Time Start  : 10:20:00 24/07/2007
Time End    : 10:21:32 24/07/2007
Time Used   : 00:01:32
-----
Total Iteration : 1
Pass            : 1
Fail           : 0
-----
Task           Start           End             Time Used      Remark
-----
FW_10H        10:20:00        10:20:23       00:00:23      Pass
FW_10F        10:20:23        10:20:46       00:00:22      Pass
FW_100H       10:20:46        10:21:09       00:00:23      Pass
FW_100F       10:21:09        10:21:32       00:00:22      Pass
-----
====<< DETAIL >>====
*****
Task Name     FW_10H
Time Used    00:00:23
Setting:
-----
Frame count : 1000
Frame gap   : 1800 bit-times
Frame length: Random
Allou Loss  : 0
Pause Ctrl1 : OFF
-----
Result:
-----
Performance Test: Pass
Link Check      : Pass

```

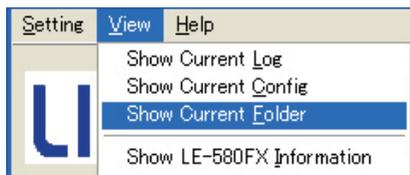


“Show Current Config”では、LE-580FX MPT が現在読み込んでいるテストモデルの設定ファイル(\*.ini)を開きます（テスト環境とタスクごとのパラメーターの詳細が表示されます）。

```

[[Environment]
ModelName=New_Model
LogName=Report
LogStamp=0
Num_Task=22
CheckLink_Wait=3
CheckResult_Wait=0
[Task1]
Task=Ping(A-->B)
Direction=1
Count=4
PassCount=4
ReplyTimeout=10000
A_DIP1=172
A_DIP2=17
A_DIP3=5
A_DIP4=1
A_SIP1=172
A_SIP2=17
A_SIP3=5
A_SIP4=2
A_SUB1=255
A_SUB2=255
A_SUB3=254
A_SUB4=0
A_gate1=172
A_gate2=17

```



“Show Current Folder”では、現在読み込んでいるテストモデルのフォルダを開きます。フォルダ内には、“log”フォルダがあります。テスト結果ログはそこに保存されています。

“log”フォルダを開くと、ログファイルの一覧が表示されます。ログファイルをクリックすると、データが表示されます。

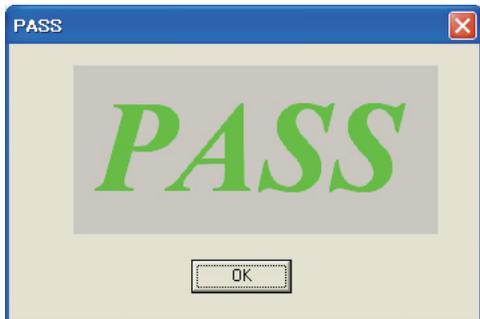
Name ▲	Size	Type	Modified	
Report2007_07_31_13_16_52_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 1:16 PM	
Report2007_07_31_13_24_41_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 1:24 PM	
Report2007_07_31_13_53_03_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 1:53 PM	
Report2007_07_31_14_02_39_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 2:02 PM	
Report2007_07_31_14_08_03_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 2:08 PM	
Report2007_07_31_14_09_45_Pass	3 KB	Text Document	7/31/2007 2:09 PM	
Report2007_07_31_14_18_53_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 2:18 PM	
Report2007_07_31_14_27_25_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 2:27 PM	
Report2007_07_31_14_31_02_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 2:31 PM	
Report2007_07_31_14_33_48_Fail	4 KB	Text Document	7/31/2007 2:33 PM	
Report2007_07_31_14_45_18_Fail	7 KB	Text Document	7/31/2007 2:45 PM	
Report2007_07_31_14_47_28_Pass	3 KB	Text Document	7/31/2007 2:47 PM	
Report2007_07_31_15_04_20_Fail	5 KB	Text Document	7/31/2007 3:04 PM	
Report2007_07_31_15_06_22_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:06 PM	
Report2007_07_31_15_07_04_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:07 PM	
Report2007_07_31_15_07_30_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:07 PM	
Report2007_07_31_15_08_03_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:08 PM	
Report2007_07_31_15_12_51_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:12 PM	
Report2007_07_31_15_18_57_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:18 PM	
Report2007_07_31_15_26_13_Fail	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:26 PM	
Report2007_07_31_15_28_08_Pass	3 KB	Text Document	7/31/2007 3:28 PM	

タスクの結果は、ログファイル名の末尾に記載されます。

## 5. タスクの実行

設定を済ませた後、メインウィンドウの中心にある  ボタンを押すと、テストモデルに盛り込まれているすべてのタスクを実行します。

すべてのタスクに合格した場合は、“Pass” とウィンドウ表示されます。



タスクの中で1つでも不合格があれば、“Fail” とウィンドウ表示されます。





# 株式会社 ラインアイ

- 本社：〒601-8468 京都府京都市南区唐橋西平垣町39-1 丸福ビル5F  
tel:075(693)0161 fax:075(693)0163
- 技術センター：〒526-0065 滋賀県長浜市公園町8-49

URL <http://www.lineeye.co.jp> Email :[info@lineeye.co.jp](mailto:info@lineeye.co.jp)